



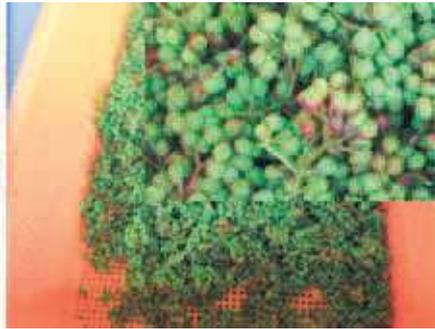
高原山椒優良株のさし木育苗成

●はじめに

高山市(旧上宝村)の高原川流域で生産される高原山椒は、実が小粒で緑色が濃く(図1)、香りが非常に強く長持ちする特徴があることから、調味料や香辛料の最高級原料として出荷されています。しかし、栽培している株(図2)の枯死や労働力不足などにより生産量が減少し、供給量が需要に満たない状況にあります。そこで、当所では、中山間農業研究所と共同で、この地域の優良な特徴を持つ山椒苗を、効率的に育成する技術の開発に取り組んでいます。



一等品(高単価)
緑色の実



二等品(低単価)
赤色の実を含む

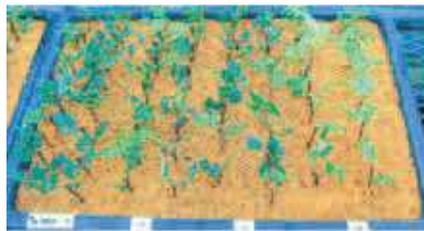
図1 山椒の品質管理



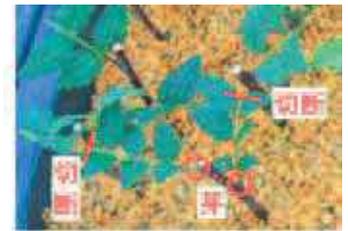
図2 山椒栽培株

● 密閉挿しによる高原山椒の優良苗育成

熱心な山椒生産者は、高品質で生産性の高い栽培株(優良株)を所有しています。その株の枝を材料に用いてさし木を行うことで、優良な特徴を受け継ぐ苗を育成できます。さし木の方法の中でも密閉ざしは、水やりを省力できることから、効率的な苗育成に向きます。そこで、密閉ざしによる高原山椒優良株の効率的な苗育成の検討を進めています(図3)。今回は、株の種類の違い、および発根を促すための薬剤処理(以下、発根処理とする)の有無がさし木の発根に及ぼす影響を紹介します。



さし付け
穂の長さの約1/3を鹿沼土へ
さし付け



穂の調整
2~3芽含むように枝を切断、
葉の先を切断



密閉状態の作出
上面を透明フィルムで被覆



管理
日陰で管理(3ヶ月以上)

図3 山椒の密閉ざし

● 株により発根率が大きく異なりました。

7月に採取した約5cmの当年枝(その年に新たに伸長した枝)を穂に用いた密閉さし(図3)を行い、7ヶ月後の発根率を調べました(図4)。その結果、発根処理の有無に関わらず、発根率が100%に近い株(e株:図5)から、0%のもの(d株)まで存在することがわかりました。また、発根処理無で発根率の低い株では、発根処理によって発根率が高くなる株(特にc株、l株)が多くみられました。発根処理は、発根率の低い株の発根率向上に効果が期待できそうです。

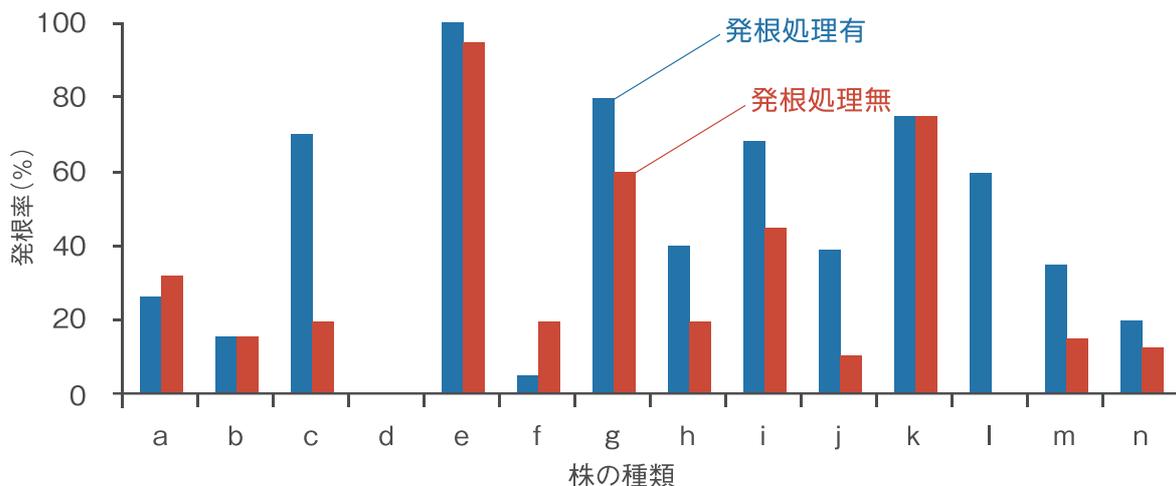
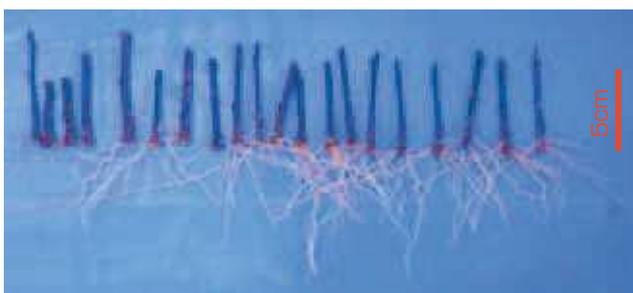


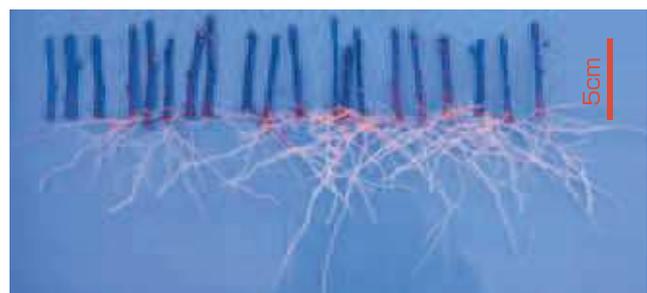
図4 株の種類と発根処理の有無が発根率に及ぼす影響

発根処理有:穂の基部をIBA80mg/L液に24時間浸漬

発根処理無:穂の基部を水道水に24時間浸漬



発根処理有



発根処理無

図5 e株の当年枝を穂に用いた時の密閉さしの結果

● 効率的なさし木苗育成には穂を採取する株の選定が重要

今回の試験において、さし木材料を採取する株によって、穂の発根率が大きく異なることがわかりました。したがって、発根率が高い株から採取した穂でさし木を行うことにより、効率的なさし木苗育成ができると考えられます。